

事業所名	グループホーム 福治の里 (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成21年 3月31日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 介護保険施設勤務 資格・経験 社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー B:現職 高等学校非常勤講師、訪問指導員 資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター、健康生きがいづくりアドバイザー
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
・日本三大奇祭の一つと言われる「はだか祭り」で有名な、西大寺観音院よりさほど遠くない田園地帯にホームはある。少し足を延ばせば、大型スーパーや銀行、郵便局、病院などがあり、利便性があり、且つ、恵まれた自然環境の中で入居者は暮らしている。
・ホームの外周には桜の木を植樹し、裏庭には広々として芝生の庭や畑を作り、入居者が散歩や菜園作りを日常的に楽しみ、自然や四季の移り変わりを身近に感じられる生活環境を提供している。
・母体法人は、各種の機能を備えた高齢者福祉の総合拠点として、地域からの信頼も厚く、そのノウハウをもとに手厚い介護を入居者に提供しており、入居者・家族は安心して任せられる。
・職員は、「縁あって出会い、温もりをもって接し、お互いの絆が深まり、笑顔が生まれる」(縁温絆笑)をモットーとして、入居者の日々の暮らしを支え、入居者との信頼関係の構築に努めており、サービスの質の向上に向けて前向きに取り組んでいる。
・入居者の経験の尊重として、入居者の生活歴や趣味等を活かした暮らしの支援を心がけており、野菜作りや漬物作り、ちぎり絵や折り紙を使った作品作り等を日常生活の中に取り入れ、入居者がやり甲斐や生き甲斐を持って暮らせるように支援している。
・楽しく、美味しく食事を摂ることを大切にしている。旬の食材や新鮮な食材を使った手作りの食事を提供しており、食事は入居者の大きな楽しみの一つとなっている。
特に改善の余地があると思われる点
特に改善の余地があると思われる点はない。
・運営推進会議等を通じてさらに地域との協力体制を確立し、より安心な暮らしの提供を行っていかれることを期待する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・「縁あって出会い、温もりをもって接し、お互いの絆が深まり、笑顔が生まれる(縁温絆笑)」をモットーとし、入居者が明るく、楽しく、安心して過ごしてもらえるような支援の提供をめざしている。 ・入居者の今までの生活経験や出来る事を日々の暮らしに取り入れ、生活を活性化し、生き生きと健康に暮らしてもらえるように取り組んでいる。 ・職員は誠意ある介護(心の介護)をめざして自己研鑽に努め、より良い入居者との信頼関係の構築に努めている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者がゆったりとくつろいで過ごせるよう、温かい家庭的な雰囲気作りを行っており、キッチンから漂ってくる料理の匂いや茶碗を洗う音等、五感に働きかける様々な刺激があり、入居者が心地よく過ごせる居場所となっている。 ・集団生活の中であっても、入居者がひとりにくつろいで過ごせるよう、窓側に向けてソファを置いており、入居者が時には一人になったり、気の合う者同士で思い思いに自由に過ごせるよう配慮している。 ・広い芝生の庭や畑、桜並木など、自然や季節の変化を身近に感じ、楽しみながら活動できるような環境を整えている。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・居室は、見守りが必要な方へは許可を得て開けていることもあるが、入居者が居室でゆっくりと一人で過ごす時間を大切にしている。居室へ入る時には、必ず声をかけ、入居者のプライベートな場所での礼儀をわきまえ、プライバシーを侵すことがないよう心がけている。 ・他の家族や訪問者に個人に関する情報が目につくことがないように、面会簿は、カード形式にして一人ひとりに記入してもらっている。個人に関する書類等については、事務所で保管して管理しており、個人情報の取り扱いには十分に留意している。 ・入居者の力量や経験に応じて、日々の生活の中で一人ひとりの得意なことをしてもらえるように働きかけ、「役割のある生活」を送ることで、気持ちに張りや潤いを持ってもらえるように取り組んでいる。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、職場内・外の研修に参加する機会も多い。研修に参加後は、職員会議の時にその内容を報告し、職員間で情報の共有を図り、ホーム全体でサービスの質の向上に努めている。 ・事故発生時には、「事故・ヒヤリハット報告書」を申し送りノートにファイルし、職員全体で発生状況、原因、今後の対策を話し合い、サービスの改善や再発防止に前向きに取り組んでいる。 		